

地域の会 質問・意見書

日付：2024年1月16日

氏名： 星野 俊彦

東京電力・原子力規制庁 に対する 質問

●先の地域の会（第247回）で東京電力と原子力規制庁に対して次の3点を質問し、それぞれから下記の通り回答頂きました。時間の制約で再質問出来なかったので関連の質問です。先の口頭での回答も含めて改めて文書で回答をお願いします。

質問1

今回の能登半島地震の海底震源帯（150km推定）の存在を以前から把握していたか？

- ・回答 東電 把握していた。
- 規制庁 把握していた。

質問2

この震源帯を、柏崎刈羽原子力発電所の安全審査の中で審査したのか？

- ・回答 東電 一時スクリーニングで取り上げないでいいと判断した。
- 規制庁 （回答なし）

質問3

現在進行形である能登半島地震を受けて、今後どう対応・対策するのか？

- ・回答 東電 地震・津波とも想定以下なので、すぐには対策しない。
- 規制庁 新たな知見が出れば、検討する事もある。

先ず上記の回答ですが、私の誤解があれば、それも併せて再度、回答して下さい。

質問2に関して東電と規制庁に対する再質問です。

質問4

東電がこの地震帯を取り上げないでいいと判断した根拠・理由はなにか？

規制庁は東電の判断を追認したと言うことか？

質問3に関して東電に対する再質問です。

質問5

地震・津波とも想定以下と言うのは、何に比較して想定以下なのか？

能登の海底震源帯は審査の対象外としたのだから解析データもないと考えるが、データ等の裏付け無しに「想定以下」とするのは科学的な検証では無いではないか？

以上2つが再質問です。

●次に柏崎刈羽原発の海域の断層に関して東電と規制庁・規制委員会に対して新たな質問です。

東電は安全審査では「敷地周辺海域の地質・地質構造」（2015年4月資料）で米山沖断層を含む6つの断層をあげて解析・評価したとしています。これに関して2つ質問します。

質問 6

安全審査では資料にある 6 つの断層を各々切り離して解析・評価したのか？

質問 7

資料にある 6 つの断層が複数連動してズレる事を想定した解析・評価はしたのか？

●次に災害時の放射線監視（特にモニタリング）について規制庁と新潟県に質問です。
能登半島地震では広範囲のモニタリングポストが地震で壊れたり電源が遮断されたりして放射線を計測出来ない事態になりました。これについて規制委員会は「ドローンや自衛隊航空機でも計測できるので問題ない」としました。そこで規制庁・規制委員会に質問です。

質問 8

原子力災害の特性は“五感で感じる事が出来ない放射線（能）”による被曝から如何にして身を守る事が出来るのか？が課題です。五感に感じない放射能を監視する為のモニタリングポストが能登では多数壊れた現実に対して「代替えの方法がある」「問題ない」と本気で考えているのでしょうか？そしてドローンや自衛隊機が 365 日いつでも発進出来る体制になっているとでも言うのでしょうか？

質問 9

原子力災害の避難計画は漏れ出た放射能の強さによって軽微な段階から大規模な避難までステップを踏んで組み立てられています。その放射線（能）監視の唯一の手段であるモニタリングポストの 100 パーセントの健全性が保証されなければ避難計画は根本から成り立たないことになりませんが、いかがですか？蛇足ですが、外の地域では壊れても志賀原発サイト周囲のモニタリングポストは壊れなかったから「問題ない」と言うのであれば、福島原発事故では高濃度汚染した地域の実態を長期間に渡り把握出来ず避難が遅れてしまった事への教訓が全く無視されています。

同じく新潟県に質問します。

質問 10

能登半島地震におけるモニタリングポストの被害を受けて、県内のモニタリングポストの健全性の総点検と必要な補強を早急に実施すべきだと考えますがいかがですか？

●最後に志賀原発の変圧器故障について規制庁・規制委員会に質問です。

変圧器故障について「3 系統の内の 2 系統が生きている」「問題ない」と言うことですが

質問 11

原発では、三つの耐震区分のエリアの全ての機器が健全でなければ、原発総体の安全性は確保出来ません。「2 系統でバックアップができた」「問題ない」ではなく、運転に支障を来す変圧器が地震で壊れた原因を検証しその対策が出来てはじめて「問題ない」と言う事だと考えますが如何ですか？